

# 平成 22 年度 事業報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

## (1) スカッシュ競技の普及に関する事業

### ① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー>平成 23 年 2 月 11 日

<スカッシュウィーク>平成 23 年 2 月 5 日～13 日

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：スカッシュ体験を広い層へ促し、実体験からスカッシュの楽しさを伝えて一層の普及を図る

対象：性別・年齢を問わず広く一般

参加人数：2,063 名（56 施設）

内容：スカッシュ体験会、試打会、ヒッティングパートナー、コーチング、レンタル無料デー、スカッシュ大会、ゲーム大会等

### ② 広報活動

イ) 広報誌<SQUASH>の発行（年 2 回）

Vol. 67（夏の号）平成 22 年 7 月発行

Vol. 68（冬の号）平成 23 年 2 月発行

ロ) 協会ホームページの運営

平成 23 年 1 月にリニューアル敢行

<http://www.squash-japan.org> にアドレスを変更

ハ) Twitter 等での情報発信の実施

ニ) 体育協会記者クラブ等マスコミへのプレスリリース等情報提供

ホ) アジア競技大会代表選考会の公開及び情報提供

ヘ) アジア競技大会選手による記者会見（於：体協記者クラブ）

ト) 普及パンフの作成・配布

### ③ 大会等のスポンサー対策及び増進

### ④ 普及渉外委員会の中に「環境対策委員会」を設立、大会等で JSA エコプロジェクトとして展開

イ) JOC の環境活動の一環として JSA エコキャンペーンを全日本 U23・ジャパンジュニアオープン・全日本選手権で展開

ロ) 環境啓発ポスターを作成、全所属団体に配布

ハ) JOC 発行平成 21 年度スポーツ環境専門委員会活動報告書に活動を報告

## (2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業

### ① アクションプラン活動とアクションプラン募金活動

目的：世界に通じる選手の育成と指導者の養成

対象：選手強化活動、コーチ養成

内容：

イ) ナショナル強化プロジェクトチームによるスカッシュエリートプログラムの実施とその運用研究

ロ) 全国地区支部や協会の大会に於ける募金活動（募金は主に海外遠征やコーチ講習会の充実の為に活用）

② J S A公認レベルT（普及トレーナー）認定講習会と認定試験の開催

主催：(社) 日本スカッシュ協会

日程：平成 23 年 1 月 22 日（土）

会場：コナミスポーツクラブ恵比寿

目的：スカッシュの正しい知識と指導法の体得とさらなる技術向上

対象：スカッシュ初心者レベルでのグループ作り等のサポートが可能な者

参加人数：7 名

成果：基本知識・基本ショットの正しいストローク方法・レフリー・マーカールの基礎知識等の習得、スカッシュの技術向上

③ J S A公認審判講習会と認定試験の開催、開催支援と公認<2 級・3 級・4 級>

主催：全国の地区都道府県支部

日程：4 月 11 日（日） 他、年 7 回全国で開催（下表）

目的：レフリー・マーカールの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする

対象：4 級—一般、ジュニア等のスカッシュ経験が浅い者等

3 級—スカッシュの競技歴が 1 年以上と認められる者等

2 級—スカッシュの競技歴が 3 年以上と認められる者等

参加人数：下表を参照

成果：

イ) 講習会：正しいルール、レフリー・マーカールのあり方、ジャッジ（判断）の進め方、トラブル対処方法、観客や試合のコントロール方法の学習

ロ) 筆記試験と実技（DVD）：試験の点数により認定の可否を決定

日程	会場	主催・ 主管支 部	受講 者数	受 験 者数	受験結果				備考
					2 級 合格	3 級 合格	4 級 合格	追試	
4 月 11 日	勤労福祉会館	東京	20	7		2		4	
8 月 7 日	ルネサンス福岡大橋	九州	8	1				1	
11 月 14 日	ルネサンス福岡大橋	九州	1	1		1			追試のみ
2 月 20 日	西宮市中央公民館	関西	27	20		5		5	
2 月 26 日	倉敷マスカットスタジアム	中国四国	2	2		2			追試のみ
3 月 6 日	セントラルウエルネスクラブ札幌	北海道	14	14	1	6		5	
3 月 6 日	西宮市中央公民館	関西	31	24		5		11	
		計	103	69	1	21		26	

④ J S A承認審判講師の認定

主催：(社) 日本スカッシュ協会

日程：4 月 11 日（日）

会場：勤労福祉会館(東京都杉並区)

目的：審判に関する正しい知識を有する講師を育成

対象：全国地区都道府県支部の審判講師承認希望者

参加人数：8 名

成果：講習会場での具体的な講習を通じて、審判講師に必要な知識・技術・技能・態度などを指導、修得、講義能力や力量の育成

⑤ J S A承認審判講師スキルアップ研修

主催：(社) 日本スカッシュ協会

日程：4月10日～11日

会場：井草地域区民センター(東京都杉並区)

目的：承認審判講師のスキルアップをし、世界との一貫性を持ったスカッシュールの全国普及を目指した。

対象：全国の各支部の審判講師を希望するもの。

参加人数：10名

成果：第10回世界レフリー会議(2009年9月開催)の内容の伝授、国内外のスカッシュの審判に関する情報資源を使用して講習

⑥ ナショナルスカッシュ強化練習会及び合宿の開催

イ) 主催：(社) 日本スカッシュ協会

日程：8月2日～3日

会場：さいたまスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：アジア競技大会でのメダル獲得を目標に、技術力の向上とフィジカルの強化等、及び選手選考

対象：ナショナルチームの選手

参加人数：各回10～20名前後

成果：アジア競技大会日本代表選手の選考会による確定及び強化練習の実行

ロ) 主催：(社) 日本スカッシュ協会

日程：10月17日、及び24日

会場：東京アメリカンクラブ

目的：アジア競技大会の出発前の強化練習

対象：アジア競技大会代表選手

成果：参加選手の強化・調整

**(3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業**

① 協会主催の競技大会

イ) 第21回全日本アンダー23スカッシュ選手権大会

日程：6月5日～6日

会場：セントラルフィットネスクラブ錦糸町

目的：日本のトップを目指す若いプレーヤーの育成強化

対象：23歳未満の男女

参加人数：89名

競技方式：トーナメント制

ロ) 第24回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

日程：8月18日～20日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：国内外のジュニア選手の交流・技術向上

対象：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11、9の男女

参加人数：130名  
競技方式：トーナメント制  
成果：海外ジュニア選手との交流と技術向上

ハ) 第16回マスターズカーニバル

日程：10月9日～11日  
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE  
目的：マスターズ層の交流・技術向上  
対象：年齢カテゴリー各30、40、50、60以上（初心者～ベテラン）の男女  
参加人数：237名及び48組  
競技方式：トーナメント及びリーグ制、ペアマッチ  
成果：日程にゆとりのある3日間開催によってマスターズ年代のスカッシュ愛好家親睦と交友拡大

ニ) 第39回全日本スカッシュ選手権大会

日程：11月3日～7日  
会場：さいたまスカッシュスタジアム SQ-CUBE  
目的：全日本チャンピオンの決定  
対象：  
選手権：全国選手権上位入賞者及び規定資格保有者、日本国籍を有する者  
男女マスターズ：日本国籍を有する者、各年齢対象者  
参加人数：207名  
競技方式：トーナメント制  
成果：日本チャンピオンの決定、国内上位選手の交流及び技術向上  
優勝：男子＝福井裕太（3連覇）女子＝小林海咲（2連覇）

ホ) JOC ジュニアオリンピックカップ第16回全日本ジュニア選手権大会

日程：3月28日～30日  
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE  
< 東日本大震災の為中止 >

② 海外大会日本代表派遣

イ) 第15回アジアスカッシュ選手権大会（個人戦・団体戦）

< JOC平成22年度選手強化委託事業 >  
日程：5月1日～5月8日  
開催地：インド、チェンナイ  
種目：個人戦、団体戦  
参加：13カ国・96名  
日本チーム：選手8名、役員3名 計11名  
主な戦績：男子団体6位、女子団体5位  
前川美和プレート優勝、鬼澤こずえプレート準優勝

ロ) ペナンインターナショナルジュニア大会

< JOC平成22年度選手強化委託事業 >  
日程：6月1日～5日  
開催地：マレーシア、ペナン

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女  
参加：12カ国、約300名  
日本チーム：選手8名、役員1名 計9名  
主な戦績：小林僚生 U17 男子3位入賞 郡司颯 U17 男子4位入賞  
山崎真結 U19 女子3位入賞 杉本梨沙 U17 女子3位入賞

- ハ) ミロ・オールスタージュニア大会  
＜JOC平成22年度選手強化委託事業＞  
日程：6月7日～12日  
開催地：マレーシア、プキットジャリル  
種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女  
参加：14カ国、450名  
日本チーム：選手11名、役員2名 計11名  
主な戦績：小林僚生 U17 男子6位入賞、山崎真結 U19 女子6位入賞  
杉本梨沙 U17 女子4位入賞、渡邊聡美 U13 女子8位入賞
- ニ) 第5回東アジアスカッシュ選手権大会  
＜JOC平成22年度選手強化委託事業＞  
日程：6月24日～6月26日  
開催地：チャイニーズタイペイ  
種目：男3女2の混合団体戦  
日本チーム：選手5名、役員1名 計6名  
戦績：日本（5勝）優勝
- ホ) 第3回アジアジュニアスカッシュ選手権大会  
＜JOC平成22年度選手強化委託事業＞  
日程：7月7日～10日  
開催地：スリランカ、コロンボ  
種目：個人戦  
参加：11カ国 120名  
日本チーム：選手6名、役員2名 計8名  
主な戦績：小林僚生 U19 男子ベスト16 山崎真結 U19 女子ベスト16  
杉本梨沙 U19 女子ベスト16 丸茂珠樹 U15 女子ベスト16
- へ) 第16回男子世界ジュニアスカッシュ選手権大会＜個人戦・団体戦＞  
＜JOC平成22年度選手強化委託事業＞  
日程：7月27日～8月7日  
開催地：エクアドル、キト  
種目：個人戦、団体戦  
参加：24カ国（個人戦は25カ国）94名（個人戦は99名）  
日本チーム：選手4名、役員1名 計5名  
主な戦績：団体戦19位
- ト) 香港ジュニアオープン  
日程：8月11日～15日  
開催地：香港

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11の男女  
参加：10カ国、500名  
日本チーム：選手13名、役員3名 計16名  
主な戦績：山崎真結 U19 女子 4位、古積廉人 U11 男子 4位  
小幡恵玲奈 U11 女子 4位

チ) 第16回アジア競技大会

< JOC派遣事業 >

日程：11月12日～11月27日（スカッシュ：18日～25日）

開催地：中国、広州

種目：男女シングルス、男女団体戦

日本チーム：選手6名 役員3名 計9名

主な戦績：個人戦 小林海咲 5位タイ

団体戦 男子5位タイ（11か国中）女子5位タイ（7か国中）

リ) 第17回女子世界スカッシュ団体選手権大会

日程：11月29日～12月4日

開催地：ニュージーランド、パーマストンノース

種目：女子団体戦

参加：16カ国 63名

日本チーム：選手3名、役員1名 計4名

戦績：日本14位

③ 海外派遣承認大会

イ) スコティッシュジュニアオープン

日程：12月28日～31日

開催地：スコットランド、エディンバラ

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11、9の男女

参加：日本選手（男子3名、女子2名）

成績：小林僚生（U17 準優勝）遠藤共峻（U17-6位）海道泰喜（U17-11位）

杉本梨沙（U17 優勝、U19 準優勝）渡邊聡美（U13 準優勝）

ロ) ブリティッシュジュニアオープン

日程：平成23年1月2日～1月6日

開催地：イギリス、シェフィールド

種目：年齢カテゴリー各アンダー19、17、15、13、11、9の男女

参加：日本選手（男子4名、女子2名）

成績：遠藤共峻（U17-14位）小林僚生（U17-16位）海道泰喜（U17-37位）

増田成吾（U17-61位）杉本梨沙（U17-11位）渡邊聡美（U13-17位）

④ 国際大会の日本開催に向けての資金及び情報の収集

目的：ジャパンオープンスカッシュ選手権大会や東アジアスカッシュ選手権大会等の国際大会を開催する事により、選手には海外選手との対戦機会を、一般には海外トップ選手のプレー観戦機会を作り、更に広く一般にスカッシュへの興味の高まりを招き普及を図る。

計画：協会創立50周年（平成33年）までに840万円を目標に、年間20万

から 30 万円の資金を積み立て、協賛企業が獲得できない場合でも国内に於ける国際大会開催を図る。

#### **(4) その他本会の目的を達成する為に必要な共通事業**

- ① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動  
成果：2010 年 11 月のアジア競技大会ではメダル獲得はならなかったが、2014 年のアジア競技大会（韓国/仁川）にもスカッシュが入る事となった。  
次回こそはメダル獲得に向け選手強化を図りたい。  
対象：男女ナショナルチーム  
種目：男女シングル戦、団体戦
- ② オリンピック競技大会での正式競技入り実現の為に推進活動  
成果：スカッシュの普及発展の為に、WSF（世界スカッシュ連盟）との連携により、IOC（国際オリンピック委員会）並びに開催国スカッシュ協会への 2020 年オリンピック競技入り要請運動を展開した。
- ③ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動  
成果：(財) 日本ドーピング機構に加盟して、競技会検査及びドーピング防止の為に啓蒙活動を積極的に行った。大会会場にて展示説明コーナーを設置した。
- ④ 会員募集事業と公認事業制度の運用  
成果：平成 22 年度より個人会員登録及び協会公認・承認大会への参加は（株）アプロード運用の「スポーツエントリー」を利用して利便性を図っている。  
世界スカッシュ連盟（WSF）の規格に基づいて、コート及びボールの公認を行いスカッシュ競技の安全性や統一を図っている。  
又、公認大会の運用（要項、ドロー、結果の確認及び公認）やランキング等の発表を行い、公認大会の全国統一とレベルアップを図っている。
- ⑤ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、東アジアスカッシュ連盟、各国協会、男女国際プレーヤーズ協会等海外との連絡調整  
成果：海外対策委員会を中心に海外の情報収集及び国内情報の発信及び海外との協力体制で積極的な活動を行った。
- ⑥ 全日本学生連盟との連携、強化  
成果：平成 22 年度より学生連盟の所属選手も個人登録とし、協会機関誌を個別に発送する事により情報を一層密に伝達した。又、大会等における協力体制を強化した。
- ⑦ 「(社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた資金及び情報の収集  
成果：スカッシュ人口増大の為に、協会保有のスカッシュコート为建设しての普及活動が不可欠であり、集中的な選手強化の為にスカッシュコートを含むトレーニングセンターの建設が必要。国や自治体の協力を得て

「(社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指し、資金と情報の収集に努力した。

計画：協会創立70周年（平成53年）までに1億円を目標に、年間10万円から100万円の資金を積み立て、不足分は基本財産や寄付金にて実現したい。

⑧ 公益法人制度改革における公益社団法人への移行申請

目的：平成22年11月12日に公益法人等認定委員会に申請。2月17日内閣府に答申され、3月22日に内閣府より認定が出て、4月1日に登記を申請した。